

特別展「絵を描く糸 刺繍美術展」関連ワークショップ
「ワンポイント刺繍のくるみボタンチャームをつくろう！」
を開催しました

日 時 平成30年10月13日(土)、14日(日)各午後2時～4時
講 師 宗真理子さん(女子美術大学 講師、刺繍作家)
アシスタント 牟田有沙さん(女子美術大学工芸研究室 助手、刺繍作家)
参 加 者 13日:一般26名
14日:親子14組15名



今回は、特別展「絵を描く糸 刺繍美術展」と関連して、ワンポイント刺繍のくるみボタンチャームを作るワークショップを開催しました。

講師には、女子美術大学にて日本刺繍の講師を務められている宗真理子先生をお呼びしました。宗先生とアシスタントの牟田有沙さんは、刺繍作家としても活躍をされており、当展覧会での出展作家でもあります。

先生の説明を聞きながら、まずは、ウサギや桜、クローバー、カエルなど12種類以上の図案の中から、好きなものを選び、選んだ布地の上に転写していきます。花の図案のように簡単なものから、大人向けの難しい図案もありましたが、子どもたちの中には、自分で描いたオリジナルの絵を布に描いた子もいました。描けた人から、刺繍に使う絹糸を図案にあう色のものを選んでいきます。



今回は特別展「刺繍美術展」の出展作品でも使われている日本刺繍を使って模様を縫っていきます。日本刺繍では、両手を使って縫い進めるため、布を挟んだ刺繍フープを机に固定し、針を通していきます。子どもたちの中には、まだ学校でも刺繍を習っていない子達もいましたが、先生や保護者の方々に手伝ってもらいながら、丁寧に針を刺していきます。大人の方々も日本刺繍では苦戦する方が多く、縫い方で悩むところや、刺繍し終わった糸の結び方を質問しながら作業されていました。



縫い終わった人から、くるみボタンの金属パーツに布を挟み、刺繍が見えるよう形を整えます。最後に先生にグルーガンでパーツ同士を貼り付けてもらえば、くるみボタンチャームの完成です。刺繍する糸の色から自身で決められることができるため、同じ図案であっても異なる雰囲気の商品ができあがっていました。はじめての刺繍に取り組んだ子どもたちでしたが、アンケートには「糸がだんだん絵になっていくのがおもしろかった」という嬉しい言葉も見ることができました。今後も参加者のみなさんが新しいことに挑戦し、自分にとっての面白いこと、楽しいことを見つけてもらえるよう、魅力的なイベントを開催していきたいと思えます。(学芸員 大村)

